

ソーシャルワークの理論と方法

問題 70 事例を読んで、相談支援事業所のB相談支援専門員(社会福祉士)がCさんへの再アセスメントで行うことに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

Cさん(27歳、男性)は、19歳で統合失調症を発症し2か月入院した。退院後は、デイケアやグループホームを活用して生活訓練を行ってきた。2年前からは、日中は週5日間、就労継続支援A型事業所で、清掃作業とチラシの折り込み作業を行っている。現在は症状も安定し、服薬管理も問題なく、事業所の給料と年金で一人暮らしをしている。Cさんは、引き続き、相談支援計画を作成しているBに「A型事業所の職員を見ていて、正社員の仕事に就きたいと思うようになった」と相談してきた。

- 1 ピアスタッフとしてA型事業所で働くこと意思の有無を確認する。
- 2 正社員での就労に向けた課題を確認する。
- 3 A型事業所で働くメンバーにCさんの転職の可能性を確認する。
- 4 正社員での就労に向けた具体的な手段と手続きを決めて、Cさんに確認する。
- 5 就労意欲の高まりと、現実認識の程度を確認する。

問題 71 ハートマン(Hartman, A.)によって開発されたエコマップに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 クライエントを含む生態系システムとその境界を可視化することができる。
- 2 介入前後の変化を確認するツールとして活用できる。
- 3 関係性を強く示す線は、破線で記すことで関係性の濃淡を視覚的に捉えられる。
- 4 クライエントの状態をいくつかの典型例に分類することで、クライエントのニーズを把握できる。
- 5 これまでの複雑な家族ダイナミクスの展開を理解することができる。

問題 72 事例を読んで、A病院の医療福祉相談室でソーシャルワーク実習中のBが、急性硬膜下血腫と診断されたクライアントのCさん(32歳)とDソーシャルワーカーの面接に同席した日の実習記録の形式として、次のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

〈8月31日実習記録〉

外来の看護師から「医師に入院・手術を要すると言われたCさんがお金がないと繰り返すので、相談に乗ってほしい」と連絡があった。10分後にCさんが来室。建設現場での作業中に転倒し、その後、頭痛が続くので受診したという。CさんはDに「金がないと治療できない。入院したら仕事もろくにできない。どうしろっていうんだ」と声を荒げた。Dは、深くうなずきながら傾聴し、Cさんの気持ちを受け止めた上で、仕事上のけがは労働者災害補償制度が適用されるなどの説明をしていた。

- 1 インターライ方式
- 2 SOAP
- 3 過程叙述体
- 4 DAP
- 5 要約体

問題 73 事例を読んで、次の記述のうち、特別養護老人ホームのB生活相談員(社会福祉士)が行う支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Aさん(80歳、女性、要介護4)は、半年前に特別養護老人ホームに入居した。脳梗塞の後遺症により左半身に麻痺があり、アルツハイマー型認知症と診断されている。1年前に長男を亡くし、麻痺で身体が思うように動かず、長男の看病を十分にできなかったことを今でも悔やんでは涙ぐんでいる。Aさんは若い頃は生け花の師範として活動しており、居室には作品の写真が飾ってある。ある日、AさんはBに「施設の入口にお花を飾ったら華やかになるわよ。私も昔は、三ツ星ホテルのロビーに花を生けていたのよ」と話した。

- 1 「それでは、職員で花を飾るようにしましょう」と答える。
- 2 長男の話が始めたときには、悲しみに暮れないように意図的に別の話題に変える。
- 3 施設内の別の余暇活動に誘い、楽しみを見つけられるよう励ます。
- 4 Aさんに「ホテルで花を生けていた時のことを聞かせてください」と問いかける。
- 5 「入口をいつも生け花で飾るのは手間や時間がかかるので、どうしましょう」と尋ねる。

問題 74 次の記述のうち、ボルクマン(Borkman, T.)によるセルフヘルプ・グループの「体験的知識」(Experiential Knowledge)と「専門的知識」(Professional Knowledge)に関する説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「専門的知識」では、理論的、標準化された方法やエビデンスよりも実践的であることに価値が置かれている。
- 2 「専門的知識」は、メンバーが行動することを通して学び、変化することで培われる。
- 3 「体験的知識」では、自分の感情的側面や自己評価が加味されている。
- 4 「専門的知識」では、“今、ここ”での具体的な行動と次の観察可能な結果が重視される。
- 5 「体験的知識」と「専門的知識」は、相互排他的である。

問題 75 事例を読んで、次の記述のうち、A生活支援員(社会福祉士)が行う支援として、適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

宿泊型自立訓練施設で出会ったBさん(26歳、女性)とCさん(28歳、男性)は、ともに軽度の知的障害がある。2年間の交際をしており、親元を離れて生活したいと思い、3か月前からアパートで一緒に暮らし始めた。二人は結婚を考えているが、Bさんは「親には勝手にすれと言われて。生活費や家事の分担が心配だし、子どもが生まれたら子育てできるのか不安」、Cさんは「親の理解が得られない」と話している。Bさんの親は無関心であり、Cさんの親は結婚することには慎重であることから、親の狭間で二人に迷いが出てきたため、以前からかかわりのあるAに相談に来た。

- 1 親たちと本人たちの意見をいずれも尊重できるように話し合いの場をもつ。
- 2 本人たちの意思表示を支援するため、生活能力や経済状況をアセスメントし、将来設計の選択肢を整理する。
- 3 出産や子育てについて考えるのは時期尚早であるため、結婚後に改めて話しましょうと伝える。
- 4 親の支援がなくても生活や育児ができるようにサービスやサポートの調整をする。
- 5 本人たちが現実吟味をして他の選択肢を考えられるよう支援する。

問題 76 次のうち、ピンカス(Pincus, A.)とミナハン(Minahan, A.)の提示した「ターゲットシステム」に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 変化をもたらすために働く人や機関
- 2 ソーシャルワークの支援や利益を享受する人々
- 3 目標達成に向けて協働する人々
- 4 機能不全状態にある社会制度や人々
- 5 目標を達成するために変化を必要とする人々

問題 77 次の記述のうち、ジャーメイン(Germain, C.)とギッターマン(Gitterman, A.)が提唱したライフモデルにおける「適応」(adaptation)に関するものとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 環境を変えることにより、個人の特性やニーズに合致する。
- 2 個人の能力と環境条件が拮抗^{きっこう}することによって、均衡が保たれる。
- 3 個人と環境が相互に影響し合うことで、バランスのとれた支援関係を築く継続的なプロセスである。
- 4 人々と環境との関係の中で、個人が能力を発揮することによって適応が確保される。
- 5 個人はニーズに合わせるために環境を変え、自らもその変化に適合させる。

問題 78 事例を読んで、ひきこもり地域支援センターのA相談員(社会福祉士)の支援の内容に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Bさん(30歳、男性)は、2年前に人間関係に悩み仕事を辞めて以来、ひきこもるようになった。現在は、深夜にコンビニや散歩に外出する程度である。半年前からAが支援するようになり、月2回の訪問と月1回のケース会議を実施している。支援開始から3か月間は、Bさんの表情や会話量は増えていたが、最近は訪問日延期の申し出が多くなっている。先日、Bさんの母親から「部屋にこもる時間が多くなり心配です」と電話相談があったため、母親と個別面談を行った。

- 1 AがBさんを訪問して話ができるように母親に依頼する。
- 2 母親にBさんがセルフモニタリングができるよう助言する。
- 3 母親からの情報をもとにBさんへの訪問を中止し、本人が望むまで支援を待つ。
- 4 母親の情報とこれまでの記録を整理し、ケース会議で支援の見直しを提案する。
- 5 母親にBさんの行動記録を依頼し、行動変化の蓄積から計画の見直しをする。